

令和6年度第1回うきは市総合教育会議 議事録

日時 令和7年2月6日(木) 開会17時30分 閉会18時45分

会場 うきは市役所 2階 庁議室

出席者 ◆委員(敬称略) 市長 権藤 英樹
教育長 樋口 則之
教育委員 處 愛美
教育委員 家永 由里子
教育委員 古賀 公彦
◆事務局 企画財政課
学校教育課
欠席者 ◆委員 教育長職務代理者 平位 秀敏

議事 (1) うきは市教育大綱について
(2) 学校再編について
(3) 質疑・意見交換
(4) その他

議事録 (発言要旨を記載)

1 開会

2 市長あいさつ

3 議事

【市長】

議事を進めさせていただきます。本日の議事は4点です。

(1)うきは市教育大綱について、事務局から説明を求めます。

【事務局】

資料に沿って説明させていただきます。

現在、取組を進めております第2次うきは市教育大綱につきましては、令和3年2月に策定し、令和3年度から令和6年度までの4年間の実施期間となっております。教育大綱の中身につきましては、基本方針2つと基本施策4つを柱とし、うきは市の最上位計画であります第2次うきは市総合計画や、その他教育基本計画等とも連動しております。4年間の実施期間での取組の成果・課題について、いくつかピックアップし、検証シートにて報告をさせていただきます。

基本施策1.「学力や個性・能力を伸ばし、時代や社会を生き抜く子どもたちを育てます。」の取組、(2)「タブレット端末や情報通信ネットワーク等の環境整え、プログラミング教育など論理的思考力を身に付けるための学習活動の充実を図ります。」という取組で、市内の小・中学校の生徒1人1人に対して、タブレット端末を活用した授業を行いました。

また、(3)「ICTを活用して学習を効率化し、教職員の指導力向上や働き方改革を進めます。」の取組では、ICT専門員を雇用して各学校を訪問し、教員の指導スキルの向上を図りました。今後は、デジタル指導書等の活用も促進しながら、教職員の負担軽減を図ってまいります。

(4)「国際交流を通じて外国語学習への意欲を高め、将来への展望を持つ機会を創出します。」の取組では、各中学校1名ずつ、小学校1名の計3名のALTを配置して、英語の実践的なコミュニケーション能力の向上を図ってまいりました。

基本施策2.「誰1人取り残さない教育を推進します。」の取組、(3)「幼稚園、保育所から中学校まで連携を進め、知・徳・体に一貫性のある教育を展開します。」の取組として、各保育所等でのリトミック教育や、音感教育と連動した英語学習等を行いました。

(4)「想定を超える自然災害などに対し、対応力を高める防災教育を行います。」の取組として、市内の保育園・幼稚園の年長児を対象に、うきはアリーナでの水泳教室を月2回実施し、自分の身を自分で守ることができる泳力の育成や、体力向上を図りました。また、児童の防災力を向上させるため、補助金事業等を実施して市内で育成を行った防災士を各小学校に派遣し、防災教育を実施しました。令和3年度は御幸小学校と吉井小学校、令和5年度は千年小学校と江南小学校と吉井小学校、令和6年度は大石小学校と福富小学校、江南小学校と吉井小学校、千年小学校と、年度を重ねるごとに、多くの小学校で防災教育の推進を図りました。なお、その中では、危険箇所を確認するフィールドワークや、身を守るための知識等の習得を行いました。今後につきましても、豪雨災害等の発生に備えて、防災教育の取組を継続して実施してまいります。

基本施策3.「好奇心とチャレンジ精神旺盛な学び続ける人づくりに取り組みます。」の取組、

(1)「発表や体験ができる教育、社会教育活動を充実させ、たくましく生きる力を育みます。」の取組として、子どもに体験の場を提供するために、アクティブラボ活動や陶芸教室、登山や料理教室等の講座を開設し、たくましく生きる力を育みました。こちらの講座は参加者も多いため、今後も継続的に開設してまいります。

(3)「スポーツや文化活動を通じて、健康で生涯にわたり元気に活躍できる環境を整えます。」の取組としては、ニュースポーツであるモルックを活用して、うきは市モルック大会を令和5年から開催しております。モルックにつきましては、子どもから高齢者、障がいのある方でも楽しむことができるニュースポーツであり、市民の健康増進に寄与する新たな取組となっております。また、近年の温暖化により多発する熱中症対策として、スポーツ指導者を対象とした熱中症対策講演会を実施するとともに、栄養学セミナーやメンタル講習会も実施しました。今後につきましては、スポーツ指導者への教育を通じて、うきは市のスポーツ環境の向上に努めてまいります。

(5)「生涯にわたる就労のために、社会人の学び直しと能力開発を支援します。」の取組としては、久留米地区職業訓練センターと連携し、リスキング講座を開設しました。イラストレーターやPhotoshopの基礎・応用編等のより実践的な職業訓練講座の開設により、実際の就職に結びつけることができました。今後につきましては、実践的な職業訓練講座を継続的に開設し、うきは市の職業紹介所も活用して、就職件数の増加を図っていきます。

基本施策 4.「地域と連携し、地域の良さを生かした特色ある教育に取り組みます。」の取組、(1)「幼少期から感性を養う音感教育や自然環境を生かした体験活動を通じ、豊かな心の育成に取り組みます。」の取組としては、前段で紹介したリトミック教育や英会話教室に加えて、年長児を対象とした農業体験やピザ作り体験、マイ箸作り体験等を実施し、自然を通じた体験活動の場を提供しました。

(4)「文化財を保存・活用し、先人たちの偉業に学び、郷土愛を育みます。」の取組としては、子どもの郷土愛の醸成を目的として、子ども古墳カルチャーガイドイベント事業を実施しております。こちらの事業は、子ども自らが市内の古墳のガイドを行えるように人材育成を行うもので、今年度育成した子どもガイド人材を活用したイベントを、来年度実施する予定となっております。第 2 次うきは市教育大綱の検証として、取組の報告等は以上となります。

第 2 次うきは市教育大綱の実施期間は今年度(令和 6 年度)で満了となりますが、前回の(第 1 次)うきは市教育大綱につきましては、連動する総合計画等の兼ね合いもあり、実施期間を 1 年間延長させていただいております。今回につきましても、現行の総合計画が令和 7 年度までの計画期間となっておりますので、こちらに合わせ、第 2 次うきは市教育大綱の実施期間を 1 年間延長させていただきたいと考えております。

また、次期教育大綱となります第 3 次うきは市教育大綱につきましては、現在策定を進めております第 3 次うきは市総合計画と合わせ、来年度策定を進めていきたいと考えております。以上、事務局として方針を提起させていただきますので、委員皆様のご意見をよろしく願います。

【市長】

(1)うきは市第 2 次教育大綱につきまして、これまでの取組の成果や課題について、ご説明をいただきました。併せまして、第 2 次うきは市教育大綱の 4 年間の実施期間を、現行の総合計画に合わせて、5 年間に延長したいとの提起をいただきました。委員の皆さんからご意見ご質問等をお受けしたいと思っております。

【委員】

検証シートにおける今後の予定・取組については、令和 8 年度以降の教育大綱に向けてということではなく、現行の取組を令和 7 年度に継続するという認識でよろしいですか？

【事務局】

令和 7 年度の取組に限って、検証シートに表記しております。リトミック教育等は、現行の地方創生推進交付金を活用して、取組を進めております。こちらの事業等は、現行の総合計画や総合戦略に従って交付金を頂戴しておるため、令和 7 年度も交付金の活用が可能となっております。そのため、第 2 次うきは市教育大綱も、実施期間の延長を行いたいと考えております。

また、新たな総合計画につきましては、新年度から策定委員会を設置して、実際の策定作業に入ってまいります。策定委員会につきましては、教育委員にも参画いただき、教育委員のご意

見等を新たな総合計画に反映していきたいと考えております。

【市長】

新年度に策定する新たな総合計画と教育大綱については、実際の策定に参画いただきながら、教育委員からご意見を頂戴するということですか？

【事務局】

はい。そうでございます。

【委員】

教育大綱の中身については、今後どのように変更していきますか？

【事務局】

うきは市第2次教育大綱につきまして、実施計画期間のみを1年間延長し、内容の変更は行わない所で、想定しております。

うきは市第3次教育大綱につきましては、新たな総合計画や総合戦略の内容を踏まえて、策定していきたいと考えております。また、実施期間につきましては、新たな総合計画や総合戦略と足並みを合わせるため、当初から5年間で策定していきたいと考えております。

【委員】

事務局としては、現行のうきは市第2次教育大綱の実施期間の1年延長を求めるので、承認をいただきたいというお考えですか？

【事務局】

そうでございます。その方向性について、ご承認をいただきたいと考えております。

【委員】

令和7年度については、新たな総合計画等が策定できていない状況であり、教育大綱を大きく変更するわけにもいかないという部分もあると思いますので、事務局の方針に対して異存ありません。

新たな教育大綱については、新たに策定される総合計画に沿った形に加え、昨年12月29日に文部科学大臣から学習指導要領の改訂に向けての諮問が出されておりますので、2027年に予定されている学習指導要領の改訂も想定すべきだと考えます。また、うきは市としてのスクールスタンダードや、シティスタンダード等についても、考える必要があると思います。

【事務局】

はい。委員のご意見に全て沿えるか難しい部分もあるかと思いますが、総合計画やその他の教育に関する計画との整合性を保ちながら、新たな教育大綱を策定していきたいと考えておりま

す。

【市長】

今、委員がおっしゃられた方向性に私も賛同ですが、教育大綱はあくまで総合計画に基づいた教育についての方向性を示すものだと考えますので、文科省が出される最終的な答申等に関しては、必要に応じて個別に計画等を策定すべきものだと考えております、

【委員】

新たに策定する教育大綱や総合計画等については、市長のお考えがしっかりと反映したものにしていただきたい。また、不登校児の増加などの新たな教育課題についても、取組を進めていただきたいと思います。

【委員】

来年度は教育委員の交代等は予定されていないので、教育委員の基本的な考え方等は変わらないと思います。新たな教育大綱は、市長の意見や思いを、より重要視したものにしていただきたい。

【市長】

ご意見ありがとうございます。市長としての考えや今後の方向性については、当然持ち合わせておりますので、新たな教育大綱や総合計画にしっかりと反映していきたいと考えております。

また、これまで高木市長が取り組んでこられたものが、現在の総合計画や教育大綱の根幹となっておりますので、こちらも尊重していきたいと考えております。

併せまして、委員からもお話があった文部科学省の方針や全国的なトレンドにつきましても、アンテナを高くしておきたいと思います。

これまでご議論いただいた中で、うきは市第2次教育大綱の実施期間の1年延長につきましては、異論がなかったと認識をしましたが、よろしいでしょうか？

【委員】

はい。

【市長】

ご賛同ありがとうございます。それでは、うきは市第2次教育大綱は実施期間を1年延長し、令和7年度も継続して取組を進めさせていただきます。

引き続き、議事を進行させていただきます。

(2)学校再編について、

こちらの議事につきましては、樋口教育長からご発言いただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【教育長】

それでは、私から学校再編についての導入の部分として、必要性や考え等を述べさせていただきます。その後、うきは市の具体的な現状等につきまして、学校教育課から説明をさせていただきます。

うきは市教育委員会としましては、浮羽中学校の老朽化に伴う建て替えも含めた検討と同時に、浮羽町域の人口減少と今後の推移を踏まえまして、浮羽町域の学校再編についても検討すべきと考えております。

市内の小・中学校の児童生徒数は、合併前から減少傾向にあります。特に、浮羽町域の山春小学校、大石小学校、御幸小学校の児童数と、浮羽中学校の生徒数の大幅な減少が、今後予想されます。小規模校の良さもございますが、一方で、人間関係の固定化により新たな見方や考え方に会う機会が少なくなる可能性がございます。市内全ての児童生徒が、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、予測困難な社会を生き抜く能力を伸ばしていく必要があると考えます。そのためには、人間関係の固定化が生じないように、一定規模の集団を確保した学びの場が必要であろうと考えております。また、保護者や地域住民と丁寧な議論を行いながら、浮羽町域の魅力ある教育環境はどのようにあるべきかを、協議していきたいと考えております。

以上のことを踏まえまして、学校の建て替えや再編等に関する様々なご意見を広く伺うため、1月31日に第1回うきは市立小中学校のあり方検討委員会を実施したところです。検討委員会の協議内容につきまして報告するとともに、今後の望ましい教育環境のあり方について、皆様からも意見を頂戴したいと考えております。

では、具体的な現状につきまして、学校教育課から説明いたします。

【学校教育課】

学校教育課から人口の減少と今後の推移、各学校建物の劣化状況について、説明させていただきます。

市の人口は、2020年では2万7,252人でしたが、2025年では2万6,210人、10年後の2035年には2万2,530人となる予想であり、20年後の2045年を2025年と比較しますと、人口は約7,200人減少し、1万8,938人、約72%の人口まで減少すると推定されています。

次に、令和3年3月に策定したうきは市学校施設個別施設計画から抜粋した児童数ですが、平成22年度と令和6年度を比較しますと、吉井町域では、吉井小学校が63人減少し、約25%の減少となっています。千年小学校のみ横ばいとなっております。福富小学校、江南小学校についても30から44人の減少となっております。吉井中学校につきましては494人から451人となり、43人の減少となっております。

浮羽町域につきましては、山春小学校が125人から112人、大石小学校は120人から107人となっております。御幸小学校におきましては、姫治小、妹川小、小塩小の3校の統合を含めても585人から369人と216人も減少しており、約37%の減少となっております。浮羽中学校においては165人減少し、約37%の減少となっております。

続きまして、各学校施設の劣化状況について、説明させていただきます。こちらも、学校施設

個別施設計画から抜粋したものとなります。施設毎の劣化状況は、三つの評価方法をもとに示しております。一つ目は目視による評価、二つ目は、経年劣化による評価、三つ目は健全度による評価です。健全度の数値が少ないほど劣化が進んでいるということになります。

まず、浮羽中学校ですが、教室棟は昭和 49 年から 50 年に建築され、建築年数が 50 年を超えています。給食室は平成 21 年建築のため、評価として A になりますが、それ以外の施設は C と D の評価が多く、広範囲に劣化が見られます。

次に、山春小学校ですが、教室棟は昭和 63 年に建築されています。屋根や屋上は D 評価で屋根や外壁などを中心に老朽化が見られています。それ以外は B 評価となっており、部分的な劣化が進んでいます。

次に、大石小学校ですが、教室棟は昭和 60 年に建築されています。評価として、屋根や外壁は部位によって違いがありますが、内部は B 評価が多くなっています。

次に、御幸小学校ですが、南校舎から中校舎、北校舎の順に 3 回に分けて大規模化改造工事を実施しております。令和 2 年度までに大規模改造工事が完了した南校舎と中校舎の評価は A となっています。北校舎については、この計画策定時点では大規模改造工事が行われておらず、評価としては工事前の評価となっておりますが、現在は令和 4 年度に大規模改造が完了し、劣化を解消しております。

続きまして、これからの生徒・児童数の推移について説明させていただきます。浮羽中学校の生徒数は、令和 9 年度の 325 名から減少し、令和 16 年度には 200 人を切る見込みです。

次に、山春小学校ですが、入学児童数が伸び悩み、令和 9 年度から 10 人を切る見込みです。また、令和 6 年度と令和 12 年度の児童数を比較しますと、112 人から 59 人となり、53 人の減少となる見込みです。

次に、大石小学校ですが、令和 7 年度から児童数が 100 人を切る状態で、令和 6 年度と令和 12 年度の児童数を比較しますと、24 人の減少となり、令和 6 年度の約 78%になると推定しています。

次に、御幸小学校ですが、令和 6 年度と令和 12 年度の児童数を比較しますと、136 名の減少で、令和 6 年度の約 63%になると推定しています。また、令和 12 年度の 1 年生は 27 人で、1 クラスになることが想定されます。

浮羽町域の児童数の合計は、令和 6 年度の 588 人から、令和 12 年は 375 人まで減少します。また、令和 9 年度からは、全学年とも 100 人を切る見込みとなっております。

最後に、うきは市全体と浮羽町域の小・中学生の児童・生徒数を 2050 年度までの 5 年ごとの推移と推計で示した独自推計になります。2020 年の 0 から 14 歳の指数の人口を 100 とした場合、今から 10 年後の 2035 年の指数は、59.8、児童生徒数は 591 人、25 年後の 2050 年の指数は 44.5、浮羽町域の小・中学生は 2020 年の 988 人から 2050 年には 440 人にまで減少すると推計しています。

以上が、人口推計と各学校施設の劣化状況についての説明となります。

【市長】

学校教育課から説明を行いました。教育長から追加の説明等がありますか？

【教育長】

学校教育課から児童生徒数の推移等をデータで示してもらいましたが、非常に衝撃的な数値となっております。令和6年度と令和12年度を比較しますと、山春・大石・御幸小学校の合計人数が、現在の御幸小学校の人数とほぼ変わらないという状況です。また、山春小学校を見ますと、令和9年度の1年生が5人、2年生が12人、これを合計して2学年で17人になりますので、複式学級の可能性がございます。近い将来、浮羽町域の小学校で複式学級の可能性があることは、特筆すべき点だと思います。

【市長】

では、皆さんからご意見やご質問があれば、いただきたいと思います。人口推計等の数値を受けて、私も多少困惑しておりますので、委員の皆様も同様ではないかと思えます。

1月31日に第1回学校のあり方検討委員会が開かれまして、自治協議会や浮羽町域の各学校長、PTA代表や市議会など、様々な立ち位置の方々にお集まりいただきました。

その委員会の中では、浮羽中学校が50年を経過し老朽化が進んでいる点や、他の市町村における小中一貫校の義務教育学校の事例等を実際に見ていただくなどして、うきは市、とりわけ浮羽町域で一番望ましい学校のあり方についてご議論をいただき、ご提言をいただきたいと考えております。今後の学校のあり方についての1歩目を踏み出し始めた状況で、委員の皆様の見解やご意見等をいただけたらと思います。

【委員】

元々は浮羽中学校の老朽化に伴う学校の再編から議論が始まったという印象を持っておりましたが、推計で示された児童数の減少を踏まえると、小中一貫や小中併設校など、同じ場所に学校を集約させて合理化するという方向で議論が進むと思います。一方で、増加する不登校児に対する対応や、うきは市独自の多様性のある学校などの検討も、併せて行っていただきたいと思えます。

【市長】

ご意見、ありがとうございます。

【教育長】

教員の配置数等は、学校の規模によって決定します。学校の規模が小さいと、学級数のみの教員しか配置できませんが、学校再編等で一定の規模になると、教員の配置数も手厚くなり、不登校児の手厚い対応等の可能性も出てくると感じております。うきは市の子どもたちに適応した学びの場を、今後どのように提供していくかが重要だと、私は考えております。

【委員】

今後の学校教育は、子どもの受け皿を作るという発想よりも、新しいスタイルやあり方について考えることが大切だと思います。そのことにより、より良い環境が生まれるのではと感じていま

す。

【市長】

ありがとうございます。私も、委員がおっしゃることに一致するところがあります。人口推計等を見ると、先行きが不安になります。その一方で、浮羽中学校の建て替えと人口減少による学校再編の二つの課題に対して同時に取り組んでいることは、委員のおっしゃる新しい考え方やうきは市独自の教育スタイルを見つける契機にもなり得ますし、二つの課題を解決することができれば、うきは市の人口減少や少子高齢化の抑止策にもつながると考えています。

今後開催される検討委員会や教育委員会等で、良い方向性が見つかることを望んでおりますし、地域や児童の保護者等の意見が活かされることが重要だと考えております。

【教育長】

教育委員や我々などの教育に携わる者は、魅力ある教育の実現を常々考えておりますし、その実現は保護者や市民にとっても、大変有益なことだと思います。教育の諸問題の解決も含めて、常に我々が念頭に置くべきことと感じています。

【委員】

この会議の前に、教育長からワンヘルスの取組についてご質問をいただきました。福岡県はワンヘルス条例を制定し、福岡県の教育委員会でも、ワンヘルス教育についての議論が行われています。高校生ですと、人と動物の共通感染や薬剤耐性菌等の学習を行うことも可能ですが、義務教育の過程でどのような教育を行うかは、福岡県の職員の方々も頭を悩ませているみたいです。うきは市は幸い豊かな自然に恵まれた環境ですので、環境保護や人と動物のより良い関係等を学ぶことができると考えております。

不登校児の増加が度々話題になりましたが、学校で動物を飼育することが通学する児童の動機付けになり、学校のオープンスペースに動物がいることで学年や教室が違う生徒同士の触れ合いや交流も生まれるのではと、可能性を感じております。多様性が認められていく社会で、多様な児童が、多様な動物と触れ合うことは、うきは市の新たな教育の売りになり、誇りを持てる学校の形成にも繋がると考えております。

【市長】

ありがとうございます。私も、うきは市におけるワンヘルスのあり方について、委員にご相談したいと考えておりました。ワンヘルスの重要性については、私も一定理解をしているつもりですので、新しい教育大綱にそのような考えや理念を盛り込みながら、人間が動物と触れ合う環境を作ることができたらと感じています。動物を飼育して、動物の病気や生死に触れることは、子どもの感受性を豊かなものにするものと思いますし、他者との触れ合いが希薄になりつつある現代社会においては、より重要になってくるのではと考えております。

うきは市の今後の教育のあり方についてですが、仮に、浮羽町域の現在の児童を1校に集約したとしても、都会の大規模校に比べると児童数は少なく、今後はさらなる児童数の減少が見込

まれます。先日視察に行きました筑豊地区の香春町は、2つの中学校と4つの小学校を1校に統合し、99名の教職員は58名となりました。この数字は、単に教職員が減ったということではありません。本来、2つの中学校と4つの小学校を1校に統合したのであれば、教職員数をもっと減らすべきところを58名に留めており、これまで人数の足りていない特別支援学級等に加配を行っております。このような取組は、教育環境の充実に繋がるだけでなく、将来的に想定される教職員の担い手不足や働き方改革にも寄与できるものと考えております。今後開催されますうきは市立小中学校のあり方検討委員会では、このような教育の枠にとどまらない希望のある内容についてご議論をいただきたいと思ひますし、教育委員会からも活発なご意見を頂戴できたらと思ひます。

【委員】

今回の人口推計の報告は、大変衝撃的でした。ただ、人口が減少しても、根本的な教育の理念は変わらないと思ひますので、将来を見据えた積極的な教育施策の実現を、市長には願ひたいです。

【市長】

ご意見ありがとうございます。うきは市の児童数の減少は、市の予算や教職員数の減少、すなわちうきは市のリソースの減少にも繋がります。今後、市の施設等の集約化や統合化を行うことにより、活用が可能な予算や施設が発生します。それを活用して、増加する不登校児に対応する施設や、ワンヘルスなどの新たな取組を行うことが可能だと考えております。

現実的な事例として、山春保育所が今年度の3月で休園します。雇用している2人の保育士は、他の保育所等に加配させていただきます。施設につきましても、現在うきは市で対応できていない病児病後児を預かれる施設や、数少ない休日保育の施設としての可能性も検討していきたいと考えております。

小・中学校を含めた市有施設の集約化や統合化は、単に施設が減少して悲観するものとなるのではなく、うきは市に新たな行政・教育サービス等が生まれる契機とし、将来性のある新たなビジョンや施設を生み出すものであるべきだと考えております。

時間の関係もありますし、一通り委員の皆様からご意見をいただきましたので、2つ目の議題につきましては以上とさせていただきますが、よろしいでしょうか？

【委員】

はい。

【市長】

(3) 質疑・意見交換

その他の点について、質疑等はありませんでしょうか？

【委員】

ありません。

【事務局】

本日は、様々なご意見ありがとうございました。

(4) その他

次回の総合教育会議の協議事項につきましては、新たに策定する教育大綱について、ご審議をいただきたいと考えております。

では、これもちまして令和6年度第1回うきは市総合教育会議を終了させていただきます。ご参加ありがとうございました。